

ドイツの視覚障害者に関するトピックスのうち，SZS に関わらない部分を適宜記録．

2005.8.24 大学統計情報追加

## 統計情報

まずは一般的な統計情報．日本と比較してみる．ドイツの統計情報は [Federal Statistic Office](#) にまとまっている．[英語版ページ](#)もあるので目的の情報が探しやすい．

### 大学

上記統計情報サイトの[該当ページ](#)を見ると，2005 年 1 月現在，ドイツ全土の大学数は 100 校（国立・私立の別は不明だが，Christoff 君によると「私立は多くても 2-3 割じゃないかな．自信はないけど．僕の feeling ではそんな感じ」とのこと．）となっている．専門大学等を総合すると 365 校．在籍学生数は大学のみで約 140 万人．専門大学等を含めると約 200 万人．学科別では法・経済・社会科学が一番多く 65 万人弱．次いで文学部系が 45 万人弱．工学部は 30 万人ちょっと．また 男女別だと女性が 95 万人．外国人は 25 万人．男女比はだいたい半分だと言える．

2005 年 5 月追記：大学の分類については明確な定義は難しい．上記の統計情報も，[ドイツの実情](#)などを読むと微妙に違うことが分かる．勿論年度によっても異なるだろうが，分類基準によって数が変化することを意識する必要がありそうだ．その後色々検索しているうちに，[ドイツの大学リスト](#)を見つけた．これを Excel にコピーして，オートフィルタで Privat & Universitaet をフィルタリングしてみると，私立 (privat) は 10 校，教会立 (kirchlich) は 17 校，公立 (staatlich) 89 校となった．このリストは全部で 322 校で，ソースの作成時期も不明だし，しかも Universitaet の総数は上述のように 116 校なので定義の仕方が異なると考えられるが，私立大学が日本と比べて極端に少ない（というか日本が多い）ことはよく分かる．

2005 年 8 月 25 日追記：Web サイト [Hochschulekompass](#) では，大学情報の絞り込み検索ができる．（[Hochschulesuhen](#) のリンク）このサイトによると，2005 年 8 月現在，国立大学 (staatlich) が 88 校，国公認の教会立大学が 16 校，国公認の私立大学が 15 校の合計 119 校となっている．その他の学校としては，芸術と音楽学校が 57 校（うち教会立 10 校，私立 2 校），Fachhochschule が 159 校（うち教会立 18 校，私立 39 校）である．ドイツも日本同様，大学の統廃合が盛んなのか？もしいい．

一方，日本の統計を[文部科学省の統計ページ](#)から落としてみると（少し古いが[英語版ページ](#)もある），大学数は 709 校（国立 87，公立 80，私立 542，公立法人立 1），短大 508 校（国立 12，公立 45，私立 451），高専 63 校の合計 1280 校である．また，学生数の概略は大学 250 万人，短大 22 万人，高専 5 万 5 千人となっており，合計は 280 万人程度．合計に占める女性割合は大学 100 万人，短大 20 万人，高専 1 万人．短大は殆ど女性で高専は殆ど男性，という一般的な感覚と合致した数字である．

日本の高等教育機関の数は，全体で 3.5 倍，大学だけを見るとほぼ 7 倍．その割に学生数はそこまで差はない．日本における大学偏重傾向と，各大学が小規模であることが伺える．しかし上の話には日本における「専門学校」を含めてはいないことに留意したい．日本人って学校好き？なのかもしれない．（学生が皆本当に「勉強したい」のかどうかは疑問だが...）

## 視覚障害者数

高等教育機関数と学生数の傾向がつかめたところで、視覚障害者数について見てみる。日本における視覚障害者数は約 30 万人、そのうち半数が 1 級、と巷ではよく言われている。厚生労働省の統計ページから得られる情報もだいたい合致しているが、ここからは、70 歳以上の高齢者が半数を占めることが分かる。すなわち「加齢及び疾病による激しい視力の低下」が多くを占めているわけだ。ドイツに関しては、全盲者 (Blinde) が 15.5 万人、そのうち多くを 79 歳以上が占める、というデータがある。そしてドイツの障害者の等級は、パーセンテージで表される。100% が一番重い障害という定義だ。各種公的サービスも、このパーセンテージで分けられる。

## 就労について

2005 年 5 月 19 日、障害者雇用に関して職業仲介をしている ZAV を訪れ、障害者雇用チームである Team213 のリーダー、Schwarzbach 氏に会って話を伺うことができた。この時伺った内容を中心にドイツの障害者就労状況についてまとめてみる。

### ZAV とは

ZAV とは、ニュルンベルグに本拠地を置く職業仲介機関、Bundesagentur fuer Arbeit の特別チームが集まる場所である。Bundesagentur fuer Arbeit は、国の組織というわけではなく、政府、会社、労働者の 3 サイドからお金を集めて構成された機関で (2005 年始めに組織改変されたそうだが) 基本的にニュルンベルグを先頭に「各州単位のサブセンター」「更に細かいローカルな組織」の 3 層構造を成している。それら 3 層とは別に、Fachbereich (専門分野組織) が 4 つ設定されており、この 4 つをまとめたものが ZAV ということである。Fachbereich はそれぞれ「EU-Binnenmarkt (EU 内労働市場)」「Internationaler Arbeitsmarkt (国際系)」「Kuenstlervermittlung (芸術系)」「Personal und Finanzen (経営系)」となっており、障害者雇用はこのうち Internationaler Arbeitsmarkt の 1 チームとして組み込まれている。個人的に面白いと感じたのは、ZIHOGA, Zentrale und Internationale Management- und Fachvermittlung fuer Hotel- und Gaststaettenpersonal と呼ばれるホテル業関連の職種も同じく特別扱いされて ZAV 内にあり、国際系に組み込まれていることだ。

さて、このような構成の ZAV において、Schwarzbach 氏率いる Team213: Vermittlung Schwerbehinderter Akademiker (専門能力のある重度障害者の仲介) は、7 名のスタッフで運営されている。

### IFD と BAG-UB について

訪問前に Schwarzbach 氏から頂いたプレゼンテーションファイルの中に、IFD という組織と比較した財務状況が述べられていた。プレゼンの内容的には「IFD より安いコストで多くの仲介をしていますよ」という主張だったのだが、IFD というものがよく分からない。そこで IFD について尋ねたところ、これは、市町村等のよりローカルな自治体を母体とする NGO で、同じく職業仲介を業務とする機関とのことだった。IFD のホームページはハンブルグの IFD につながるが「IFD」で検索すると、各地の IFD サイトがヒットすることからも、自治体ベースであることがよく分かる。また、他の一般的な障害者雇用の仲介機関として、BAG-UB というものがあることも教えてもらった。ZAV の彼のセクションとの違いは、専門知識を持つ障害者がそうでないかの違いがあるという。重ねて言うが、Team213 はあくまで「専門知識を持つ重度障害者のための職業仲介チーム」なのである。

### 法定雇用率について

法定雇用率については 2001 年に法改正があり「労働者 20 名以上の会社は重度障害者を 1 名以上雇わなくてはならない。」という基準、すなわち法定雇用率 5% に設定されたそうだ。また、基準を満たさない場合の罰則金の月額は以下のようになっているとのこと。

- ・年平均雇用率が 3% ~ の場合：105 ユーロ
- ・年平均雇用率が 2% ~ 3% の場合：180 ユーロ
- ・年平均雇用率が 2% 以下の場合：260 ユーロ

確かに多くの企業が罰則金を払うことで障害者雇用をしていないのが現状なようだが、この制度のため、およそ 300.000.000 ユーロが Bundesagentur fuer Arbeit の重要な財源になっていると Schwarzbach 氏は話していた。

ちなみに 2001 年以前は、法定雇用率は 6%、16 名に 1 名の割合で、罰則金は 200DM であったことが、[Kahlisch 氏の論文](#)に書かれている。

一方、日本に目を向けてみると、官公庁・教育委員会・特殊法人・民間企業で異なる基準があるが 1.8 ~ 2.1%、48 ~ 56 人に 1 人の割合である（詳しく知りたい方は「障害者雇用率制度」などで検索すると色々出てくる）。更にダブルカウント制度？なんかもあったりするので、日本はドイツと比較すると、遥かに「ゆるい」と感じる。しかしこの法定雇用率について以前 SZS ヘッドの 1 人である Vollmar 教授は、「IT 分野では数人規模の小さな会社が多いので、重度視覚障害者が（IT 分野就職に関して）法律のバックアップを得られることは少ない」とコメントしていた。

## SGB IX

障害者雇用についての、より細かい法的記述は、ドイツの社会法典第 9 編 (SGB IX - 重障害者法) (または[こちら](#)を参照) に詳しく書かれている。SGB とは、Sozialgesetzbuch の略であり、上述の法定雇用率の該当箇所は 77 章の部分である。

## 近年の障害者雇用の問題点と解決手法

インタビューの中で、Schwarzbach 氏は、「近年の専門知識を持つ重度障害者の就職について、大きな問題はその専門分野にある」と述べていた。すなわち、大学専攻が文系分野に偏っているということを指している。理系学科なら、専門分野と企業とを結び付けやすいが、文系学科だと何ができるのか、どのような仕事が可能なのか本人も企業も分からないということらしい。そこで、この状況を打開すべく、彼のチームは、ここ数年で「分野指向」から「個人指向、Personal oriented」に方針を変更した。

具体的には、それまで企業側からも学生側からも分野情報を得てマッチングをとって紹介していた方法を、個人情報をもっと細かく記述したデータを整理・管理して、企業に提供するという方法に転換したそうだ。

## Team213 の活動

Schwarzbach 氏によると、この方針転換により、年間 17000 通の手紙を企業に発送し、160 件前後の仲介を生み出しているという。この数値は、2002 年のインタビュー記事に書かれた数字であるため、2001 年 ~ 2002 年の実績と考えられるだろうが、毎年同様の作業を進めているようだ。これらは前述の個人指向転換の賜物だが、その手紙を見せてもらったところ、1 通 1 通に、障害者個人の氏名を除くパーソナルプロフィール、どのような資格や経験を持ち、何が出来るのか、が細かく記入されている。言ってみれば、日本での履歴書を匿名にして各会社に発送したような感じ

であろうか。

そう考えると、日本とさほど変わらないような気がするが、とにかく数を打たなくてはならない個人レベルでの就職活動とは違い、企業側のリクエスト情報を保持したうえでの発送なので、成功率は遥かに高くなると考えられる。

そして、興味深いのはその文面である。相手企業によって、応募している個人が重度障害を持つかどうかを明記したりしなかったりという手法を用いているそうだ。具体的には、個人の技能や取得資格などを箇条書きにした最後に、「私は障害者雇用の担当だ」という署名を書くことで、明記はしないものの理解はしてもらい、最初のハードルである「読んでもらう」ということをクリアする戦法である。未だ障害者の技能について偏見が持たれる分野では有効な手法だと言える。

## Studien-&Berufswahl

以上の話の中で、「Studien-&Berufswahl」という本についても説明された。「学業と就職の選択」という意味だ。何をどこで勉強し、就きたい職を探す場合の手がかりとなる情報をまとめた辞書のような本で、毎年 Bundesagentur fuer Arbeit が発行している。写真は SZS にあるものだが、これを読むと、どのような機関に相談したらよいのか、どの大学で何が勉強できるのかが分かる仕組みだ。[SZS:講演に関するレポート](#)の EINSTIEG Abi の項目でも書いたが、学業と就職とをひとくくりにして進路として捉えている点が興味深いと感じる。

## 大学のサービスについて

日本での学生の就職を考えると、大学の「就職担当」の果たす役割が大きい。近年は少なくなる傾向にあると思われるが、「大学卒」も未だに存在するだろうし、大学宛に求人票も送られてくるだろう。逆にドイツでは、大学は全くと言っていいほど就職には関知していないようだ。この話を Schwartzbach 氏に振ると、私立大学に関連した面白い話を聞くことができた。とある私立大学では、学生数が 60 人程度で、学費がかなり高いという。その代わりに、就職の面倒まで見るということだ。公立大学の有料化が議論される現在、もし有料化された場合は、就職仲介という「サービス」を学生側が求めるだろうということだ。学費とサービスのバランスという観点では、私立大学の存在とその経営は reasonable だ、と彼は述べていた。

## DVBS(Deutscher Verein der Blinden und Sehbehinderten in Studium und Beruf e.V.)

マールブルグにある [DVBS](#) は「視覚障害者のための教育と仕事の協会」だ。2005 年 6 月 21 日 DVBS を訪れ、チーフマネージャーのリヒター氏に話を伺った。

### 目的と活動

DVBS の活動目的は、専門知識の取得を目指す視覚障害者への学習及び就職の情報提供である。どの大学でどのような資格が得られるとか、法律家になるためにはどういったプロセスを踏めばよいのかなど、若い視覚障害者に情報を提供する。もちろん会員には実際にそういった職業領域で働く視覚障害者も多いため、生きた情報が提供できる。

具体的な活動内容としては、年 6 回の雑誌発行や墨字からデジタル媒体への点訳、セミナー開催などを行なっている。資金の 50% はサービスやマガジンを売る収入、30% は政府から、20% は寄

付金だという。雑誌には CD 版もあり，デジター対応，MP3,PDF，HTML など様々な形態に対応したデータを入れるので，その手間がかかると言っていた。

常勤スタッフはチーフ 2 名を含む 12 名。それに 20 ~ 30 人ほどのボランティアスタッフが加わっているという。

## 会員

会員数は約 1400 人。16 歳以上という制限付(上限はないそう)。また，会費は年 100 ユーロで，学生は半額だそう。これには雑誌購入費も含まれる。会員の 35% が学生で，50% が現役で働いているとのこと。視覚障害者の全人口に占める高齢者の割合からすると，会員構成がかなり若い現役組であることが言える。また，専門知識志向な会員しかいないため，1400 人という会員数は少ないわけではなく，バランスのとれたリーズナブルな数だと説明してくれた。

## SIGs

DVBS の説明文の中に SIGs という略称が出てくるので尋ねたところ，Special Interesting Groups の略だとのこと。これは全部で 9 グループあり，例えば弁護士グループ，先生グループなどその専門領域を担当するグループだそう。また，Studying や Retirement といった分野に特化したグループもあるという。

## バリアフリーウェブサイトプロジェクト

資金調達について伺った際，プロジェクトの資金という話が出てきた。SZS でも同様だが，このような活動団体にとってプロジェクト資金は重要な位置を占める。現在動いている具体的なプロジェクトに，Web サイトのバリアフリーチェックプロジェクトがあるようだ。これはベルリンの財団から資金を得て行なっている。2004 年実績で年間約 150 サイトのチェックを行なったという話で，5 人の晴眼者を雇い，1 サイトを 2 人体制でチェックする。法律に準拠した項目をチェックするというのが売りだ。

## BLISTA について

### BLISTA とは

簡単に言うと BLISTA とは，「視覚障害者のみを受け入れるギムナジウム」，すなわち盲学校ギムナジウムである。ドイツの初等教育課程は日本で言うところの小学校 4 年生，10 歳までであり，この 4 年間で基礎学校 (Grundschule) と呼ぶ。そしてそこから中等教育課程である「ギムナジウム」「実科学校 (Realshule)」「基幹学校 (Hauptschule)」「統合制度学校 (Gesamtschule)」に分かれるのだが，基本的に大学に進学するにはギムナジウムを選択する(途中からの変更も可能)。つまり BLISTA は，大学進学希望者用の盲学校であると言える。このようなギムナジウムは，ドイツにもうひとつ，Koenigs-Wusterhausen にあるが，旧東ドイツに位置するせいもあり，近年は衰退しているらしい。そういった理由もあり，本当は 2 校あるのだが，BLISTA が「唯一の視覚障害者用ギムナジウム」と評されるようだ。

### 概要など

BLISTA は，DVBS と創始者が同じであることもあり，マールブルグに位置する。丘をあがったところに配置された建物は，体育館や宿舎，いくつもの校舎から構成される。話を伺った BLISTA の職員によると，現在在籍者数は 280 ~ 300 人ということであり，学年を追うごとに学生数が増えているとのこと。これは，統合教育になんらかの壁を感じて編入してくるケースが多いということだった。また，地域の盲学校について少々話を伺ったが，日本と同じく，重複障害学生が主に

入っており、純粋な視覚障害だけの障害者が少なくなっているようだ。そのような中、盲学校では十分な教育が受けられず、かといって普通校での統合教育もまだまだ進んでいないのが現状なので、BLISTA に入学する学生が多いのだという。

## 雑感

マールブルグをうろつくと、確かにあちこちで白杖をついた人々を見かける。DVBS や BLISTA のことは、ガイドブックには勿論載っておらず、有名なエリザベート教会のことしか書いていない。この地だけを訪れるということは少ないだろうが、もしそのような観光客がいたとすると、ドイツは視覚障害者が多いと思うに違いない。

---

[ [カールスルーエ滞在記 TOP](#)] [[Home](#)]